

中国のマイクロファイナンスにおける 社会関係資本の役割

劉
姜

鵬*
文源**

I はじめに

本稿では、中国におけるマイクロファイナンスの展開を概観し、その特徴と今後の可能性について論じる。マイクロファイナンス実施機関（以下 MFI とする）は、本来、無担保の小額融資を通して社会の貧困削減に貢献できる金融組織として注目されてきた。しかし、NGO が中心となっていた初期の MFI は、資金難などで、その事業拡大に失敗したケースも多い。とくに NGO 活動に政府官僚組織が関与する中国では、NGO が中心となる MFI はその活動領域を大きく広げることではできなかった。2008年、中国政府は小額の貸付を行う金融機関の設立を奨励する政令を發布する。この政令によって、中国では小額貸付会社が数多く設立されることになる。さらには、NGO 活動として始まった MFI が小額貸付会社になる動きもみられる。小額貸付会社は、商業化された MFI ともいえるもので、一般的には担保や保証人を要求し、貧困層よりも農村の富裕層への融資に力を入れている。MFI の定義は

* 広東海洋大学経済学院講師

** 福岡大学経済学部教授

人によって差がみられるが、貧困削減が MFI の本来の機能であるとするならば、中国の一般的な小額貸付会社は MFI とも呼べないものである。

しかし、2008年以降に増えた小額貸付会社のなかには、MFI の維持に民間資金を導入しながらも、無担保で貧困層への融資を拡大している成功事例も存在する。たとえば、富平会社がそうであるが、本稿ではその成功事例を分析し、成功の要因を明らかにしたいと考えている。近年の MFI に関する研究のなかには、社会関係資本²を活用した有効な MFI の組織作りを紹介しているものも多いが、富平会社の事例は、まさしく、中国農村の社会関係資本を効果的に活用した MFI の組織作りを示しているものと思われる。

本稿の構成は以下の通りである：まず、第2節では、MFI が中国で導入された経緯を説明し、中国において NGO が中心となる MFI が十分に拡大されなかった理由を説明する。第3節では、NGO 型 MFI の代わりに、小額貸付会社という、商業化された MFI が急増した背景を説明し、NGO 型 MFI と小額貸付会社の違いを明らかにする。そして、第4節では、商業化された MFI でありながら、貧困層に対する無担保融資を実施している富平会社の事例を紹介、この富平会社の MFI としての成功を社会関係資本の観点から分析する。最後の第5節はむすびとなる。

¹ 商業化とは、MFI が資金調達を商業ベースで行うことができ安定的な資金の調達を可能にすることを指す [濱田 2010]。

² Paldam [2000] によると、社会関係資本は信頼、協力の容易さ、ネットワークの3要素の組み合わせによって定義されることが一般的であるという。本稿では、後述するように、パットナムに従い、信頼、社会規範、ネットワークの3要素をもって社会関係資本を定義する。

II MFの導入とNGO型MFI

中国では、1993年の「關於金融体制改革的決定」および1996年の「關於農村金融体制改革的決定」が發布され、中国の都市金融および農村金融は市場化政策のもとで改革が行われた。都市部では、国有銀行5行が市場化政策の方針に従い、商業化改革・株式化改革を行い、2005年から2010までにかけて、上海および香港株式取引所に上場されることになる。金融市場の大半を占める都市部の金融機関が経営の効率化、そして、利潤最大化を追求する市場化政策に転換したことは、農村の金融市場にも影響を与えた。たとえば、農業銀行は郷鎮に点在した支店を閉鎖し、農村金融の供給不足問題を深刻化させた。つまり、金融市場化政策は貧困農民の小額金融需要を軽視したのである [劉 2014]。

中国の農村金融の主力と位置付けられている農村信用社は、農家信用小額貸款（信用貸付）と農家連保小額貸款（連帯保証貸付）を行っている。韓 [2008] は、農村信用社の改革は「三農」³へのサービス提供の面で顕著な改善がみられず、逆に、「三農」への支援を弱める傾向が強く見られると指摘した。中国の広大な農村地区にはおよそ7億人が存在しているといわれているが、これらの農民の小額資金需要に応えきれないのが現状である。たとえば、張 [2010] の調査によると、中国農家の約7割は信用社からの融資を受けられないという。また、農家信用小額貸款は、農民が持っている資産に対する信用調査をもとに行われる小額貸付のことであり、資産を持たない貧困

³ 三農問題とは中国が抱える「農業」、「農村」、「農民」の3つの「農」の問題で、具体的には、農業の低生産性・低収益性と農村の発展遅れ、および農民の貧困などの問題を指す。また、「農民」問題は「三農」問題の中心である [馬 2011]。

農民は除外される。農家連保小額貸金はグラミン・モデル形式を参考にして
いるが、積極的に運用されていない [張 2010]。つまり、農村信用社は農村
金融の主力でありながらも、市場化政策のもとで利潤最大化を重視する傾向
が強く、農村の貧困削減という社会的な役割を重視していないのが現状であ
る。このような現状において、MFI の普及は農村の貧困問題を解決するた
めの重要な方策になっているのである。MF とは担保になるような資産を持
たず、金融サービスから排除された、貧困に苦しむ人々のために提供される
小額の無担保融資や貯蓄・保険・送金などの金融サービスを指す [管 2009,
岡本・栗田・吉田 1999]。MFI の本質は無担保で貧しい人に融資すること、
そして貧困削減を経営目標とすること、の 2 点にあるといえる。

MFI は、1970年代の中頃、それまで融資の対象とされていなかった貧困
層に対して、生産活動・所得創造のための資金を小額ながら無担保で提供す
るという画期的な取り組みとしてバングラデシュで始まった。アジアやラテ
ンアメリカのいくつかの国々においても、同じ時期に同じような試みがそれ
ぞれ独自の手法で行われたが、そのなかでバングラデシュのグラミン銀行は
もっとも成功した事例として注目される。グラミン銀行の特徴は、融資相手
が貧しい女性であること、相互選抜により形成された五人グループによる連
帯保証を導入したこと、そして、この連帯保証によるメンバー相互監視のメ
カニズムが働き、融資グループと銀行間の情報の非対称性が緩和されたこ
とにある [坪井 2007]。グラミン・モデルは貧困対策として注目され、その
功績を賞するために、グラミン銀行とその創始者であるムハマド・ユヌス総
裁には2006年のノーベル平和賞が授与された。バングラデシュで行われた
MFI は、中国の農民の貧困問題解決にも貢献できると期待され、中国の広
大な貧困農村地区において MFI の導入が検討されることになる。

1970年代の中国は、バングラデシュと同様に農民の貧困問題を抱えていた。農民の貧困問題を解決するために、中国社会科学院農村発展研究所の杜曉山は、中国でははじめてグラミン・モデルを導入する。当時、中国国内では、貧困扶助資金が農民の手元に渡らない場合が多く、返済率も非常に低かった。グラミン銀行が貧しい女性に対して無担保で小額融資をおこない、ビジネスとしての持続可能性を実現したことは、当時の杜曉山に啓発的な影響を与えたと言われている。杜曉山は研究小組のメンバーたちを率いて、バングラデシュを幾度も実地調査し、現地で開催された MFI の国際会議にも参加した。また、杜曉山はグラミン銀行のユヌスと会見し、グラミン銀行が中国でプロジェクトを展開して、グラミン・モデルを中国でも実践することを要請した。さらに、杜曉山はバングラデシュで研修を受けていた時に、グラミン銀行の信託基金から「ソフト融資」（低利子融資）を受けることにも成功した。

1994年5月、杜曉山と研究小組のメンバーたちは貧困農民に小口融資を提供する「扶貧経済合作社」（以下、扶貧社と略称する）という組織を設立する。扶貧社は、貸付金の担保を要求せず、貧困農民の家を担当者が直接訪問し返済金や利子を徴収するという特徴をもっていた。また、返済率を確保するために、「5世帯による連帯保証」（5戸連保）という制度が導入された。最初に、北京から最も近い、国家クラスの貧困県⁴である河北省の易県がモデルケースとして選定された。しかし、この後、NGO型 MFI が中国の農村に広く普及され、農村の貧困削減に貢献してきたとはいえない。これには以下のような事情があった。

⁴ 国家クラスの貧困県は中国政府が定めた基準で指名されたもっとも貧しい県のことである。当時、河南省の南召県及び虞城県と陝西省の丹鳳県と四川省の金堂県で、「扶貧社」が設立された。2015年現在、592の貧困県が存在している。

MFIが発展している国では、MFIに関する制度の枠組みが設立され、法律的にもMFの法人格が明確にされている。さらに、MFIの規模が拡大されるにつれて、預金の受け入れが認められるようになり、事業規模の拡大も可能になった。たとえば、グラミン銀行は、その事業規模の拡大とともに、1983年10月2日の政令により、正式に独立銀行として認められた。これはグラミン銀行が全国事業展開にとってもっとも重要な政策的な支援であったといえる。しかし、中国では、このような政令は存在しない。

中国のNGO型MFIは、民間の一般社団法人として登録され、正規の金融機関ではなく、預金の受け入れも禁止されているため、その規模を拡大していくことは難しい。さらに、中国内のNGO活動には、つぎのような組織の問題も存在する。NGOは一般的に非政府組織、あるいは非営利の民間協力組織と定義される。したがって、NGO型MFIも形式的には地方政府からの独立が認められている。しかし、中国では、NGO型MFIは地方の農業局、扶貧事務所、婦女連合会などの県政府組織に付属することになっている。これは、NGO型MFIの人事が地方政府に握られることを意味する。NGO型MFIに配属された役人は地方政府から給与と賞与が支給され、MFI経営の良し悪しが報酬に影響しないため、積極的な経営が行われてない。さらには、配属された役人は副県長、扶貧事務所主任、婦女連合会主席などの地方政治家であって、金融機関の運用に必要な専門知識を持った経営者でもない[程・徐 2006]。結果的に、中国のほとんどのNGO型MFIには地方政府の関与が強く、効率的な運用による事業拡大は期待できないのが、いまの現状であるといえる。

Ⅲ 商業化された MFI：小額貸付会社

2008年5月、「關於小額貸付会社試点的指導意見」⁵が發布されたが、これは MFI に関する直接的な政策支援ではなく、あくまでも Loan company である小額貸付会社に関する政策であった。この政令によって、小額貸付会社の設立が奨励されたものの、預金の受け入れと地域に跨る経営は禁止となる。これはバングラデシュの1983年の政令とは逆であったともいえる。

2008年の政令によって、中国では毎年1000社ほどの小額貸付会社が設立されている。これらの小額貸付会社は株式会社であり、商業化発展を重視し、小額貸付 MF 機関として期待される社会開発や貧困問題解決は重視していないのが一般的である。

MFIの本質は貧しい人々に無担保で小額金融サービスを提供することである。しかし、中国では、一部の NGO 型 MFI を除いて、ほとんどの小額貸付会社は、融資を受ける農民に対して物的担保や保証人を立てるなどの条件付きで小額融資を行っている。にもかかわらず、中国では担保や保証人が要求されても小額の金融サービスを提供すれば、MFI と認識される傾向がある [何ほか 2009]。

表1は中国の NGO 型 MFI と小額貸付会社の特徴を比較したものである。表を見てわかるように、NGO 型 MFI はグループ連帯保証を取り込み貧困農民に融資を行い、貧困解決を経営目標とし、社会的価値や知識の普及を重視する。しかし、NGO 型 MFI は外部資金に対する依存度が高く、事業の規模拡大は見込めないため、より多くの貧困農民にサービスを行うのが困難であ

⁵ 政令とは、政府が發布した執政命令ことである、法律的な力があり、下級機関に対して強制力を持っている。

表1 NGO型MFIと小額貸付会社の比較

	NGO型MFI	小額貸付会社（小額貸付社会）
経営目標	貧困解決 社会開発	商業化 貧困解決
運営機構	NGO 機関	小額貸付会社
運営体制	政府官僚 NGO 役員	金融専門家
所有制度	不明確	明確（株主）
資金形態	外部援助資金	商業化資金
利息	相対的に低い	相対的に高い
顧客目標	貧困農民	農民のなかの裕福者
担保制度	グループ連帯保証（無担保）	物的担保、保証人要求
財務持続性	持続可能性が低い	持続可能性が高い

（出所）林 [2007]、陳 [2011] より筆者作成

る。その反面、小額貸付会社は商業化資本を受け入れることによって事業規模を拡大してきたが、リスク管理を重視するようになり、農民のなかの裕福者に融資を行っている。小額貸付会社は貧困解決を目標としているものの、実際の経営は利潤最大化を追求するものが多い [何ほか 2009]。

周・李・孫 [2012] は中国の山西、四川、貴州、陝西、内モンゴルの7つの小額貸付会社を調査した。調査結果によると、農民貸付総額は貸付総額の30%しかなく、特に、四川全力と陝西信昌小額貸付会社は農民に対する融資額は貸付総額の3.3%しかない。つまり、小額貸付会社は国の優遇政策を享受するために、貧困農民に融資することを謳えながらも、実際は中小企業（中小企業の社長が農民のなかに裕福者である場合など）に融資するケースが多く見られる。

つまり、NGO型MFIはグループ連帯保証の導入によって貧困解決に役に立つという長所と外部資金の過度な依存により財務上の持続可能性が低いと

いう短所を持つ。それに対し、小額貸款公司是商業化資金の吸収によって財務上の持続可能性が高いという長所と、貧困農民を融資対象から外し、貧困削減には役に立たないという短所を持つ。

また、中国では NGO 型 MFI が小額貸款公司に変わることもある。中国の農村金融市場改革によって、各金融機関が利潤最大化を追求するようになったことを受け、NGO 型 MFI は事業を維持するために商業化資金を受け入れ、商業化される傾向が見られる [張 2013]。

表 2 は、NGO 型 MFI と小額貸款公司（NGO から変化した小規模貸付会社も含む）の代表的な事例を比較分析し、それぞれの特徴をまとめたものである。例えば、河北易県扶貧社（NGO）はグラミン・モデルそのものであり、融資相手を貧困女性に限定し、5 世帯グループ連帯保証を取り込むことと毎週返済することによって、99%の返済率が維持されている。また、利子率は16%で、正規金融機関の利子率より高いが、民間個人貸付の利子率より低いものとなっている。このように、扶貧社は易県の農村経済発展及び地域の貧困農民の所得向上に貢献していると評価できると思われる。しかし、扶貧社は NGO 型 MF であり、外部の援助資金に依存して貸出資金規模が相対的に小さい。陝西西郷県の女性発展協会と貴州興仁県の興仁農村発展協会も NGO 型 MF であり、易県の扶貧社と類似性を持っている。

内モンゴルの融豊小額貸款公司はもともと NGO 型 MFI だったが、商業化改革によって民間資本を受け入れ、資本金を1億人民元まで増資し、事業規模の拡大を実現した。会社規模及びサービス内容の充実からみると融豊公司是 NGO 型 MFI から小額貸款公司への商業化改革に成功した事例と言える。しかし、商業化改革に成功した融豊小額貸款公司是貧困農民ではなく、中小

表2 NGO型MFIと小額貸付会社の事例比較

	NGO型MFI			小額貸付会社		
場所	河北易県	陝西西郷	貴州興仁	内モンゴル	寧夏	山西永濟市
組織名	扶貧社	女性發展協會	興仁農村發展協會	融豊小額貸付公司	惠民小額貸付公司	富平小額貸付公司
性質	NGO	NGO	NGO	NGO→商業化	NGO→商業化	NGO→商業化
資金	外部援助資金	外部援助資金	外部援助資金	民間資金 援外部助資金	民間資金 外部援助資金	民間資金 外部援助資金
資本金	905.6万元	423.3万元	244万元	1億元	6000万元	3,000万元
融資対象	貧困女性	貧困女性	貧困農民	小企業	貧困農民	貧困農民
目的	貧困解決	貧困解決	貧困解決	利潤最大化	利潤最大化	貧困解決
貸付期間	3ヶ月、1年	1年	1年	1年 利息毎月	1年	6ヶ月、1年
利息	16%	15.3%	12.8%	27%	15.9%	20%
保証	グループ 連帯保証	グループ 連帯保証	グループ 連帯保証	保証人	保証人	無担保
返済率	99% (2007)	100% (2010)	99% (2009)	100% (2009)	99% (2012)	100% (2010)
センター会議	毎週	不定期	不定期	無し	不定期	不定期
特徴	村レベルまで 普及 小組基金 強制貯蓄	技術指導 法律、金融知 識の普及	技術指導、金 融知識の普及	商業化、資金 の安全性と収 益性重視	法律、金融知 識の普及	地元重視、村 のリーダーの 役割、農民の 組織化 親孝行の農民 に貸付、家族 内の同意
利息	16%	15.3%	12.8%	27%	15.9%	20%
保証	グループ 連帯保証	グループ 連帯保証	グループ 連帯保証	保証人	保証人	無担保
返済率	99% (2007)	100% (2010)	99% (2009)	100% (2009)	99% (2012)	100% (2010)
センター会議	毎週	不定期	不定期	無し	不定期	不定期
特徴	村レベルまで 普及 小組基金 強制貯蓄	技術指導 法律、金融知 識の普及	技術指導、金 融知識の普及	商業化、資金 の安全性と収 益性重視	法律、金融知 識の普及	地元重視（地 域化重視） 村のリーダー の役割、農民 の組織化 親孝行の農民 に貸付、家族 内の同意

(出所) 張・謝 [2008], 邵 [2011], 涂 [2011], 劇・李 [2010], 陳 [2009], 楊ほか [2010] より筆者作成

企業や裕福な自営業者への融資に力を入れた。また、保証制度もグループ連帯保証ではなく、保証人を立てることを要求した。逆に言うと、中小企業や裕福な自営業者は貧困農民より保証人を立てやすいから、グラミン・モデル流のグループ連帯保証制度は必要がないことになる。融豊小額貸款公司の利率は27%で、表の中で一番高い利率であるが、これはその経営目的が利潤最大化であることを現わしているものと思える。表からわかるように、寧夏惠民小額貸款公司も商業化運営され、貧困者に対する融資には消極的である。

一方、山西永濟市にある富平小額貸款公司（以下、富平公司と略称する）は、NGO型MFIの特徴を保ちながら、民間資本を誘致し商業化され経営的にも成功している。この富平公司について、もっとも注目したいのは、貧困農民を融資対象とした無担保融資で、100%の返済率を維持していることである。つまり、富平小額貸款公司は何ほか[2009]が指摘したLoan companyではなく、貧困削減という本来の機能を果たしているMFIであるといえる。次節では、富平公司が成功している要因を、社会関係資本理論の観点から分析してみることにしたい。

IV MFIにおける社会関係資本の活用：富平公司の事例

富平公司は全国でも本社を村（蒲州鎮西街）に設置している唯一のMFIである。中国の小額貸款公司は本社を県城（中国の行政区分上三級の都市である）に設置し、中小企業と自営業者に対する融資をビジネスにするのが一般的だが、富平公司は、同じく商業化されたMFIでありながら、本社を村に置き、農村の貧困削減に貢献している[何ほか 2012]。富平公司が成功した要因は、近年急増している社会関係資本の研究成果をもって説明すること

ができる。Bowles and Ginitis [2000] は、市場機能が働かない場合、社会関係資本が市場に代わる有効な資源配分装置となると指摘している。貧困層に対する小額の貸付は、モニタリング・コストが高くなり、取引費用が貸付契約から生じる期待収益より大きくなることが多く [Hoff and Stiglitz 1990]、その市場が成立しないケースであるが、この市場の失敗は社会関係資本を効果的に活用することで克服できるものでもある。富平会社はその具体的な事例を示すものである。パットナムは社会関係資本が信頼、社会規範、ネットワークの3つの要素から構成され、これらの要素の蓄積によって社会活動及び経済活動の効率性を高めることができるとした。そこで、以下では信頼、規範、ネットワークの3つの側面から富平会社が成功した3つの要因を分析する。

第1に、信頼の側面から見ると、管理者と貸付員の本地化⁶は富平会社の成功したもっとも重要な要因である。ここで本地化とは、融資を行う村から、管理者（村長、村のリーダーなど）と貸付員を雇用することを意味する。村から選ばれた管理者と貸付員は融資相手の貧困農民の情報をよく把握しているため、融資する前の信用調査のコストや融資した後のモニタリングコストを下げるができる。さらに、融資農民と管理者や貸付員の間に地縁・血縁による信頼関係があるため、融資農民による悪質なデフォルトリスクを緩和することもできる [覃 2012]。富平会社が100%の返済率を維持しているのは、貸手と借手の間の信頼関係が強いからであると思える。この信頼は社会関係資本を構成するもっとも重要な要素でもあり、富平会社は農村社会に蓄積された社会関係資本を生かし、MFI取引（経済活動）の効率を向上さ

⁶ 中国語の意味で、その地域から選ばれた貸付員が地域の人々に小額金融サービスを行うことである、貸付員と融資者が同じ村の人で、お互いに情報が共有している。

せたとも評価できる。Feigenberg, Field and Pande [2010] は、MFI 構成員の間に会合の頻度が高くなると返済率も高くなることを発見した。これは会合の頻度が多くなることによって、関係者間の社会関係資本、とくにお互いの信頼が深くなることを含意していると解釈されるが、MFI の管理者、貸付員、そして融資を受ける家族が同じ村に住んでいる富平公司の場合は、とくに会合の日を決めなくてもいいほど会合の頻度が高く、そのうえ、お互いの信頼度も高いと思われる。

第2に、社会規範の側面から見ると、富平会社は独自の審査基準を持っていて、それは、まず、農民個人に融資するものではなく農民の家族単位に融資するということである。家族2人以上の同意が得られなければ、融資は受けられず、家族全員の名誉と信用が連動しているため、返済率を高く維持されることになった。家族単位の融資によって家族内の絆を強めることもできるという指摘もある。また、審査基準の1つとして親孝行という項目があり、親孝行しない農民には融資を行わないことも特徴的である。中国の農村社会においては、親孝行の文化が伝統的に継承されてきたから、親孝行する人間に対しては、社会的評価も高いし、信用度が高い人間、責任感を持つ人間として認められる傾向がある。また、農村社会の中での人間関係のなかには、伝統的に、「欠債還銭」（お金を借りたら返すべき）という価値観が強く浸透していて、「欠債不還」（お金を借りて返さない）は重要な道徳的欠如であると見なされる。この価値観や道徳的な基準は農村社会における社会関係資本の規範であると解釈できる。農村社会の価値観の体系の中で、その社会的規範を守らない人間は生活上の不利益を負担しないといけないし、社会的な処罰も生じる。

第3に、農民の組織化は農民の間のネットワークを築き上げることである。富平公司是農民にMFサービスを行う前に、地元の果物協会（浦州鎮果品協会）と連合して、果物協会の会員（農民）に小額融資を行った経緯がある。果物協会は小額貸付と資金の回収を統括する機能をも持っていた。このような機能をもつ果物協会を中心に、会員（農民）の間には広範囲で、堅固なネットワークが構築されることになって、会員間の情報交換や価値観の共有などが実現された。組合に対するの責任感やネットワークの存在が、高い返済率を維持してきたもう1つの要因であったといえる。また、果物協会は会員に融資していただだけではなく、センター会議を開き、会員に金融知識を教え、信用の重要性を訴えてもいる。このような活動を通して、これらの問題に対する会員間の共同意識が高まったと思うし、協会会員間の社会関係資本の強化にもつながったと思う。王 [2011] によると、富平公司在存在する山西省南部は、中国のなかでも所得格差がとくに小さい地域である。Alesina and Ferrara [2000] は、より同質的な地域がより多くの社会関係資本を蓄積していることと示しているが、ここで同質的というのは、とくには、所得格差が小さく同一民族（人種）の割合が高いことを意味する。中国のなかで、所得格差が小さく、より同質的な地域に存在する富平公司是、その分、農村のネットワーク作りも容易にできたと解釈できる。

V むすび

いま、中国は経済全般における市場化政策を行っている。経済・社会全般にわたる市場化政策は、中国の所得格差をさらに拡大させる可能性が高い。市場化政策には、市場化にともなう格差の拡大を防ぐ補完策が必要であると思われるが、中国政府が提示している政策のパッケージにはそのような補完策が足りない。所得格差問題を解決していく中で、最貧層に対する配慮は非

常に重要な政策課題になるはずで、中国の最貧層は内陸の農村部にいると考えて間違いないだろう。農村の貧困問題を解決していくことは、市場化政策の弊害をやわらげるための最優先課題であると思う。

そして、MFIは農村の貧困問題を解決できる有効な社会的取組である。民間のNGO活動が不十分な中国では、ほかの国よりも商業化されたMFIの乱立が目立つが、商業化されたMFIのなかでも地域の社会関係資本をうまく活用し、MFIの本来の活動目的である貧困削減に貢献している成功モデルが存在する。それが、本稿で紹介した富平公司の事例である。中国の農村には、いまでも“同族村”⁷が多く、信頼・規範・ネットワークという、富平公司を成功させた社会関係資本が十分に蓄積された地域が多い。つまり、富平公司の事例は、例外的な場合というより、中国の多くの村で実施できる、応用可能なモデルであると思われる。とくにNGO活動が活発ではない中国の場合は、MFIが商業化されていく流れを止めるよりは、商業化したMFIが農村の社会関係資本をうまく組織化し、貧困削減というMFIの本来の活動目的を達成できるよう、政策的に誘導する必要があると思える。

参考文献

〈日本語文献〉

- 岡本真理子・栗田晴子・吉田秀美 1999. 『マイクロファイナンス読本』明石書店。
 韓俊 2008. 「中国農村信用社改革の評価と農村金融改革の課題」『農林金融』61
 (4) 181-195.
 菅正弘 2009. 『マイクロファイナンス－貧困と闘う「驚異の金融」』中央公論新社。

⁷ 同族村とは同族によって構成される村落のことである、ここで、同族はいわゆる宗族のことであり男系の同姓同宗の親族のことを指す。中国では、同族は地域的に村落を区画して聚居していることが多く、それによってその自然的な結合を強め、村落内部における第一次的な結合を形成しているという。また、中国では、華北において同族村が比較的容易に見出されるというのが一般の定説である [福武 1976]。

- 濱田美紀 2010. 「マイクロファイナンスの商業化—資金不足の解消方法はあるか」『アジア研ワールド・トレンド』(173) 20-23.
- 福武直 1976. 『中国農村社会の構造』東京大学出版会.
- 坪井ひろみ 2007. 『グラミン銀行を知っていますか』東洋経済新報社.
- 劉鵬 2015. 「中国における農業銀行の改革から見た農村金融政策の転換」『東アジアへの視点』(6) 51-64.
- ロバート・D・パットナム 1993. 「哲学する民主主義」河田潤一訳 NTT 出版.

〈中国語文献〉

- 陳鵬 2009. 「小額信貸の貴州実践及経験」『地域金融研究』(10) 49-51.
- 陳梓 2011. 「小額貸款公司的發展模式及在中国的實踐分析」『金融經濟(理論版)』(1) 18-19.
- 程恩江・徐忠 2006. 「中国小額信貸發展報告」財経網.
- 何広文・杜曉山・白澄宇・李占武 2009. 「中国小額信貸行業評估報告」中国小額信貸發展促進網絡.
- 何広文・楊虎鋒・張群・謝昊男・宋冀宏 2012. 「小額貸款公司的政策初衷及其績效探討—基於山西永齊富平小額貸款公司案例的分析」『金融理論與實踐』(1) 4-10.
- 劇錦文・李勁民 2010. 「山西平遙、内蒙古鄂尔多斯小額貸款公司之比較」『生產力研究』(5) 1-7.
- 林麗琼 2007. 「國際小額信貸發展的經驗及啓示」『科技和產業』7 (10) 77-98.
- 馬小平 2011. 「關於三農問題的思考」『新農村』(4) 78-79.
- 邵伝林 2011. 「農村非正規金融轉型中的制度創新—以富平小額貸款公司為例」『中央財經政法大學學報』(5) 108-115.
- 覃一時 2012. 「“想借錢？ 就攢人品！” 背後的社会網絡機制研究—以山西永齊富平小額信貸為例」『時代報告』(6) 363-364.
- 涂江濤 2011. 「公益援助資金的 NGO 小額信貸發展的路—對西鄉縣婦女發展協會運行模式的探析」『西部金融』(6) 41-42.
- 王向東 2011. 「山西省城鄉收入差距變動研究」『太原師範學院學報(社会科学版)』10 (2) 66-68.
- 楊林娟・杜靜・柴洪・張軍 2010. 「非政府(NGO) 小額信貸問題研究—基於甘肅省安定區的調查」『西北農林科技大學學報(社会科学版)』(10) 57-60.
- 周孟亮・李明賢・孫良順 2012. 「基於普惠金融視角的小額貸款公司發展研究」『西北農林科技大學學報(社会科学版)』12 (4) 1-7.
- 張丹 2013. 「NGO 小額信貸機構轉型是否導致目標偏移」『當代經濟研究』35 (4) 83-88.

- 張双英・謝瑞芬 2008. 「対易県扶貧經濟合作社發展狀況的調查与思考」『華北金融』(10) 33-36.
- 張丹 2013. 「NGO 小額信貸機構轉型是否導致目標偏移 — 基於寧夏惠民小額貸款公司的轉型实例分析」『当代經濟管理』35 (4) 83-88.

〈英語文献〉

- Alesina, A., and E. La Ferrara 2000. "Participation in Heterogeneous Communities." *The Quarterly Journal of Economics* 115(3): 847-904.
- Bowles, S., and H. Gintis 2000. "Social Capital and Community Governance." *The Economic Journal* 112(483): 419-436.
- Feigenberg, B., E. Field., and R. Pande 2010. "Building Social Capital Through Microfinance." HKS Faculty Research Working Paper Series, RWPIO-019, Harvard University.
- Hoft, K., and J. E. Stiglitz 1990. "Imperfect Information and Rural Credit Markets-Puzzles and Policy Perspectives." *The World Bank Economic Review* 4(3): 235-250.
- Paldam, M 2000. "Social Capital: One or Many?." *The Journal of Economic Surveys* 14 (5): 629-653.